

■CIS各地報告

<ベトナム-1>

日程	2013年9月18日(水)～29日(日)※12日間
場所	・FUJIKIN BAC NINH INC. ・ハノイ工科大学
参加者	・大阪大学 工学研究科2名 外国部学部2名 ・ハノイ工科大学 工学部大学院4名
引率者	大阪大学5名

<概要>

現地企業では、将来、日本語を習得したベトナム人に管理運営を任せることを目指しているため、日本語で仕事が進められており、実習も日本語で進められました。しかし、現地学生はベトナム語以外でのコミュニケーションができず、ベトナム語専攻の学生に通訳の負担が集中してしまいました。時間とともに意見交換が行えるようになり、夜を徹して報告書を作成するなど結果的には充実感のあるものになりましたが、コミュニケーションの実態が当初の目標とは、少しずれたものになってしまいました。

現地企業の対応は、配慮の行き届いたもので、社長自ら長い時間を割いていただきました。ただ、日程が12日間と短くなったことで、6日連続の実習となり学生は終盤疲れてしまいました。それに加えて、現地企業での説明が日本語中心であったことと、現地学生の英語力の問題等が重なり、進行に苦慮した面があります。

とはいえ、事前研修を充実させ、学生間での役割分担を明確にし、グループ討議を盛り込むなどにより、文理融合型の取り組みが充実しました。現地企業だけでなく、その仕入れ先や兄弟会社を訪問できたことで、現地企業の活動や課題を見ることができ理解が深まりました。

企業実習では、もっとベトナム人社員からの生の声を聞く機会があれば、学生の理解や印象が違っていたかも知れません。学生にとって実業の世界の理解は難しいものです。その中で学生が積極的に論議を交わし考えを固めて行くには、もう少し時間や指導の工夫が必要とも思われます。